

「中瀬検定」とは？

「夢のたまごを育もう」

「夢を大切に」...本校名誉校長の小柴昌俊先生は、子どものころに夢中になれるものと出会うことの重要性を強調されています。そして出会ったものと長い間付きあって自分の生き甲斐に育てる。それが、中瀬中の生徒たちに贈られた言葉、「夢のたまごを育もう！」でした。

「教養主義」

「夢のたまご」を見つけるために、そして見つけた「夢のたまご」を大切に育てるために欠かせないものが、たまごの「揺りかご」です。この「揺りかご」やに当たるものこそ、「教養」なのです。「教養」を身につけることもとても大切です。有名な数学者、藤原正彦先生「経済は豊かな社会を実現するためであり、**教養は自らを豊かにするためのもの**である」はおっしゃっています。

教養の中味はというと、「マナー」「趣味」から「知識」「技能」「感性」まで幅広くあります。特に、「知識」「技能」「感性」といえば、中学校で学んでいる九つの教科そのものともいえます。教科書を相手に、これらに必死に取り組むことももちろん大切です。

でもそれだけでなく、「人間的魅力を高める」「愉しみである」ことに重きを置いて学び、教養を磨くことも目指そう。そう発案し、作ってきたのが中瀬検定です。

中瀬検定って何？

教育は、「夢」であり「ロマン」です。子どもたちの夢やロマンを大切に育む「ゆりかご」としての教養をつけるのが中瀬検定です。

各教科の学問領域の基礎～発展にあたるものを、日本人の「教養」として検定テキストにまとめました。中瀬中学校の教員たちだけで完成させたオリジナルのテキストを用いて、全校で検定週間を設けて取り組みます。

キャッチフレーズは、「**基礎基本は面白い！**」「**学力向上を全校行事で！**」

教養 = 文化の発信を！

中瀬検定の大きな特色は、この検定を生徒と教員だけで進めるのではなく、多くの大人の方々に学習支援サポーターとして一緒に入って運営していただくことと、小学生や高校生を含む家族や、地域の大人の方にも検定に参加できることです。

多くの方々と一緒に、地域への文化発信としたいと願っています。

杉並区立中瀬中学校
校長 藤川 章